

令和4年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立誠和福祉高等学校)

目指す学校像	福祉やボランティア等の人との関わりを大切にする教育活動を通して、人間性を磨き、地域や社会を支える力と心をもった生徒を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の「考える力」を育て、確かな学力を身につけさせる。 2 思いやりの心と、自主・自律の態度を養う。 3 高い志を持ち、社会に貢献できる人財を育成する。 4 広報活動を充実させ、地域社会において福祉教育への理解を広める。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					実施日 令和5年1月31日		
年	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	○授業改善の成果があらわれているが、さらなる学力向上、生徒の主体的学びの促進に向けて学校全体で取り組む必要がある。	○新学習指導要領による授業及び観点別評価の実施により、学力向上を生徒に実感させる。	①授業評価アンケートを行い、年度内の授業改善に活かす。 ②教育課程委員会を活用し、授業及び評価を円滑に行い、授業の理解度を高める。 ③各系列とコースにおいて資格取得・検定・実習・成果発表等を通して生徒の主体的学びを促進する。	①授業評価アンケートで「授業が理解できる」と回答した生徒が90%を超えたか。 ②新学習指導要領に対応した教育課程及び観点別学習評価の実施について職員研修会を実施し、授業改善に取り組むことができたか。 ③生徒アンケートで「主体的に学習に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が85%を超えたか。	授業改善により学力向上を生徒に実感させた。 ①Google Classroomのアンケートフォームを用い、全教科で1学期末に授業評価を行い、授業改善に活用した。 ②観点別学習評価に基づく評価・評定について研修を実施。1学期実施後の課題等を全教員で共有し、改善を図った。 ③生徒アンケートで80%の生徒が「主体的に学習に取り組んだ」と回答した。前年度81%に比べ、1%減少した。評価指標とした85%を超えることはできなかった。	B	新学習指導要領による授業及び観点別学習評価の実施により、さらなる学力向上、生徒の主体的学びの促進に向けて、教科の枠を超えて学校全体で取り組む必要がある。 ICTを活用して授業を行う教員も増えてきた。12月にはGoogle for Education研修会を実施した。次年度の1人1台端末環境下での授業実施に向け、さらに活用が活発化するように取り組んでいく。
2	○コロナ禍においても工夫して思いやりの心を育てる取組が多く行われている。福祉の実践者となるために、さらに自主・自律の態度を養うことが求められる。	○福祉専門高校の特徴を生かし、心の教育と自主・自律を促す指導を行う。	①人との関わりを大切にする教育活動・人権教育・部活動・生徒会活動等を通して思いやりの心を育てる。 ②身だしなみ・挨拶・言葉遣い・時間厳守・登校マナー・清掃等基本的な生活習慣を確立させる ③校内支援体制を構築し、特別支援教育や教育相談の充実を図る。	①人権意識を高め、思いやりの心を育てる指導を全教職員で日常的に行うことができたか。 ②アンケートで「身だしなみ・登校マナー等のルールが守れた」と回答した生徒が90%を超えたか。 ③特別支援教育推進委員会・教育相談委員会の定期的な開催に加え、関係機関との連携を密にし、さらにはSCやSSW等を活用し、効果的な取組ができたか。	生徒指導、教育相談、特別支援教育の充実を図った。 ①今年度もコロナ禍でボランティア活動や部活動、生徒会活動に大きな制限があった。授業や学校行事等を通して人権意識を高める指導を行った。 ②登校指導や授業中の巡回指導等により、授業規律を徹底した。生徒アンケートでは96%が身だしなみのルールを、98%が交通ルールを「守れた」「まあまあ守れた」と回答した。 ③隔週配置されたSCやSSWを効果的に活用し、関係機関と連携して支援できた。	A	福祉専門高校の特徴を生かした授業を積極的に進め、心の教育を一層定着させる。近隣からの交通マナーの苦情は件数としては減少したものの、依然として寄せられている。定期的な通学路における登下校指導を継続する。身だしなみやマナー等の徹底に向けて、自律の態度を養う指導が課題である。 多様な背景を持つ生徒に対し、SCやSSWによる支援を効果的に活用できた。次年度も校内教育相談体制の更なる充実を図りたい。
3	○コロナ影響下での進路選択や受験への影響が懸念される中、各学科・各系列の特色を生かし、生徒の希望する進路を高いレベルで実現することが求められる。	○進路指導を充実させ、早い段階から生徒の進路意識の向上を図り、資格取得・検定等の受験を促進させる。	①福祉科と総合学科の系統的なガイダンスや進路学習を充実させる。 ②資格取得、各種検定試験の受験等を通して進路意識を高める。 ③進路指導部・学年・教科・学科が連携し、的確な情報提供と進路指導を行う。 ④企業見学の機会を増やし、生徒の職業選択に幅を持たせる。就職支援アドバイザーを活用し、進路相談対応を充実させる。	①1年生の生徒アンケートで「進路意識が高まった」と回答した割合が、90%を超えたか。 ②介護福祉士国家試験、介護職員初任者研修、生活援助従事者研修、保育検定等各種検定に積極的に取り組む生徒の割合が増加したか。 ③進路指導の結果、就職内定率と進学合格率が共に98%を超えたか。 ④コロナ影響下で進路選択の影響が懸念される中、企業を複数見学させ、就職支援アドバイザーを十分に活用できたか。	生徒の進路意識を高める取組を進めた。 ①生徒アンケートで90%の生徒が進路意識を高めることが「できた」「まあまあできた」と回答した。前年度92%に比べ、2%減少した。 ②生徒アンケートで76%の生徒が資格取得や検定受験に「取り組んだ」「まあまあ取り組んだ」と回答した。前年度81%に比べ5%減少した。 ③就職内定率97.1%、進学決定率97.5%である。(1月12日現在) ④就職支援アドバイザーを効果的に活用し、生徒の進路相談対応の充実を図った。	B	進路ガイダンス等計画的にキャリア教育に取り組んだ。企業見学の機会を増やしたり、Handy進路室を活用し、求人票をデータで見られるようにするなど進路指導や支援方法を工夫した。 両学科の系統的な進路指導の体系化の検討は課題である。資格取得、検定合格も含めた各コース、系列ごとの入学から卒業までを見通した進路指導計画の充実を図りたい。介護福祉士国家試験について全員合格に向け、引き続き指導する。進路指導部を中心として学年・教科と連携し、丁寧な指導を次年度も継続していく。
4	○効果的な生徒募集戦略の構築が課題である。本校の特色や取組を全県にアピールし、志願者確保につなげる必要がある。	○広く県民に本校の特色を打ち出すよう情報発信を工夫する。	①HP、学校案内の活用やボランティア活動等地域との連携を通して、本校の取組を発信する。 ②全県を対象とし、学校説明会等を工夫してより効果的に多くの中学生や保護者に本校の特色を伝える。 ③全教職員で共通理解を持ち、組織的に生徒募集活動を行う。	①学校案内等の配布、HPのこまめな更新、マスコミへの情報提供、地域の活動への参加等により広報の機会を充実させ、本校の取組をより多く発信できたか。 ②学校説明会の案内を多くの地域に配布して周知するとともに、ICTを活用するなど工夫して、予定した学校説明会を全て実施できたか。 ③組織的な生徒募集活動の結果、中学生やその保護者の本校理解が進んだか。	本校の特色を広く情報発信する工夫を行った。 ①「誠和の風」6号発行、HPを頻回に更新。 ②コロナ禍で例年通りの生徒募集活動ができない中、学校説明会や体験授業を計5回実施(前年度比1回増)。ICT機器を活用し、小会場に分散して実施した。羽生・加須・行田・久喜等の各中学校で上級学校説明会や出前授業等を行い、本校の教育活動を紹介した。 ③生徒募集委員会を中核として全教職員の協働による組織的な生徒募集を推進し、中学生や保護者等に各学科の魅力を分かりやすく効果的に情報提供した。	B	中学校訪問を再開させたり、各種イベントや上級学校説明会、出前授業等の回数を増やしたりして、本校の教育活動の紹介を広く県民に発信するよう組織的に生徒募集活動を行ったが、昨年度以上に志願者確保は厳しい状況にある。志願者確保につなげるための中学生や保護者への本校の特色、魅力発信の在り方が大きな課題である。

学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習評価により、ABC評価と5段階評定を明確にし、客観的かつ公正な基準で行い、生徒たちの学習効果を適切に高める必要がある。 ・教育の情報化を進め、ICTを活用して課題に取り組ませる体制を保つことで、個別学習、協働学習による学びを推進することが重要である。 ・具体的な目標が見えている生徒は自ら学び、より学力の向上が実感できている。早期に進路が選択できるような取組を充実させることで目標設定が早くなることを期待したい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「思いやりの心を育てる」取組は本校の根幹であり、実践に結び付くことは非常に重要である。ヤングケアラー等について学んだり、SCやSSWの支援を受けながらSSTやアサーショントレーニング等を活用したりなど、対人関係を円滑にするための指導を継続してもらいたい。 ・社会人としての基本である身だしなみ、挨拶、ルールを守る等を引き続き指導し、近隣からの交通マナーへの苦情ゼロを目指してもらいたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色を活かした生徒の進路実現の成果が出ていると考える。評価項目の達成度が高い水準で維持できるよう、本校ならではの特色を醸成してもらいたい。今後も更なる向上に向けて継続したキャリア教育を期待する。 ・生徒は職業を意識していて、挨拶がきちんとでき、高大連携で来校した際も明るく元気がよいので評価している。 ・専門学科を有する高等学校では、資格・検定での実績や、そのゴールとなる具体的な就職率が学校の評価や中学生の人気(志願倍率)に直結する。継続したキャリア教育を期待する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地元近隣の自治体からは一定数の志願が期待できる状況にあると思われるので、PRの手法を工夫して、志願者のエリアを拡大する必要があると考える。交通機関等のアクセスが課題であろう。 ・中学生はもとよりそれ以上に保護者へのアピールを考えていくことが必要。生徒が中学生の保護者対象に大人の介護講座を開くなど保護者を通じて中学生にPRするのはどうか。保護者や地域を応援団につける広報に取り組み、生徒募集活動の成果をあげることを期待する。